

研修報告書 No. 5

研修先： 土佐市民病院

この度、2023年7月の1か月間、高知県土佐市の土佐市民病院で地域医療研修を行いましたので、今回の研修で学んだことを報告します。

研修は主に外来診療を学ぶ機会が豊富にありました。これまでの医師臨床研修では、主に、既に診断のついている患者さんの病棟業務を行っていました。

しかし、外来診療では初めて会う患者さんの診断をつけていくことから始めなければなりません。患者さんの訴えから鑑別となる疾患を想起し、どの範囲まで検査をするのか、検査結果を解釈して、治療介入や入院とすべきなのか、帰宅を許してよいかなど、常に判断を続けていくことに苦勞しました。さらに外来診療では、比較的時間にゆとりのある入院対応とは異なり、限られた時間内で診療を進めていかなければなりません。上級医に常に相談できる体制が整っていましたが、まずは自分自身で診療を進めていく必要がありました。研修開始当初は、疾患を考えるとところから時間がかかってしまい、患者さんやスタッフの皆さんに迷惑を掛けていました。上級医に手伝っていただき、診療の様子を見させてもらうこともありましたが、その際に、先生方は血液検査の結果を待つ間に、別の検査を追加したり、点滴を処方するなど同時並行に進めていることに気が付きました。患者さんにとっては、ただ待つだけよりも満足感のある時間を過ごすことができ、医療者にとっても効率的に検査結果を揃えたり、早期に治療開始することができます。研修の後半では自分でも工夫して診療を進めることができる場面も出てきたと思いますが、まだまだ改善できる部分がありますので、今後の研修でさらに研鑽を積み診療技術を向上できればと思います。このような気付きを得ることができたことも、今回の地域医療研修のお陰だと考えます。

高知県の地域医療としては、地域によっては中核病院に限りがあり、長距離から移動し受診される患者さんがいる現状を知ることができました。特に医療機関に限りが顕著となる夜間帯には、四万十市から土佐市まで移動して来たり、安芸市から高知市まで搬送されることもあるようです。実際に研修中にも自宅が遠方のため、帰宅を選択することができずに、入院対応とした患者さんもいました。地域医療では単純な医学的な要素だけではなく、住居の場所も踏まえて診療方針を決定する必要がありました。

また、高知県では若者が県外の都市部へ住む傾向があり、高齢者のみで生活している家庭が多いことも分かりました。そのようなケースでは、入院管理で病状が改善した後にも、元の自宅で戻ることが難しく、一度別の施設に移ることも検討することもあるようですが、病院と自宅の間を繋げる施設も少ないとのことでした。

今後、日本でさらなる高齢化や過疎化が進んだ場合、上記のような事例が、どの地域でも起こりうるのではないかと考えます。そのような現状を伝える教育、住みやすい環境づくり、

地域での経済の向上など、臨床医学の範囲を越えた複数の分野で協力する必要があること、また、私たち一人ひとりが自身の問題として捉えていくことが大切だと考えました。

この度、外来診療の経験や地域医療を考える機会を持つことができたことも、丁寧に指導してくださった土佐市民病院のスタッフの皆様、研修をサポートしてくださった高知医療再生機構の皆様、そして、研修にご協力いただきました患者さんや市民の皆様のお陰と思っております。高知県の皆様に変えていただき、充実した地域研修を過ごすことができました。関わってくださった全ての皆様に、心より深く御礼申し上げます。今後もお世話になることもあるかと思いますが、その際には、どうぞ宜しくお願いいたします。